

様式第1号 (第6条関係)

協働事業に関する提案書

平成28年4月8日

(宛先)狭山市長

団体名 ガールスカウト埼玉県第10団

所在地

代表者名 横川 良枝

次のとおり、協働事業に関して提案します。

1 提案する協働事業	市民提案型協働事業・行政提案型協働事業
2 事業名	体験型防災学習
3 事業期間	平成28年6月 1 日から平成29年2月 28日
4 事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度事業 <input type="checkbox"/> 継続事業
5 事業予算	総予算 330000円 (補助金 220000円)
6 事業概要 ※100字以内で簡潔に記入してください	防災の日と3. 11に併せ、体験型防災学習を行い、市民、とりわけ青少年の防災意識を高める。具体的には、9月に避難所宿泊体験と2月末に帰宅ハイク(電車が止まったと想定して出先から歩いて帰るハイク)を行う
7 添付書類	<input checked="" type="checkbox"/> 協働事業に関する企画書 (様式第2号) <input checked="" type="checkbox"/> 協働事業収支予算書 (様式第3号) <input checked="" type="checkbox"/> 協働事業実施スケジュール (様式第4号) <input checked="" type="checkbox"/> 協働事業提案団体概要書 (様式第5号)



協働事業に関する企画書

団体名 ガールスカウト埼玉県第10団

1 事業名	体験型防災学習
2 事業の詳細	<p>①9/1防災の日前後:震災を想定した避難所宿泊体験。併せて、野外調理(炊き出し)、非常食試食、複数の非常時に役立つ講座(ブース設定)を行う。3. 11のパネル展示や映像学習などで、当時の記憶が薄い児童等にも防災意識と助け合いの意識を育てる</p> <p>②2月末(3. 11前):外出時、震災により帰宅交通網が無くなった想定で外出先から徒歩で帰れることを体験する。(新宿～、池袋～、川越～など、複数ルートを設定) ゴール地点で3. 11のパネル展示と被災地産の商品(例:南三陸ワカメなど)を販売</p>
3 実施体制	<p>対象を市内在住の小中高生及び児童を含む家族とし、青少年の防災意識向上と防災に役立つ技術を身につけることを目的とするため、青少年育成団体であり、キャンプや救急法など、防災技術につながるノウハウを持ち長年活動している当団体が中心になって実施することで、充実した内容を提供できる。</p>
4 役割分担	<p>【提案団体の役割】 事業の企画、提案。団体内での過去の実施実績を活かしての進行管理</p> <p>【市の役割】 実施場所の確保。人員の提供又は募集。参加者募集案内(チラシ・ポスター製作と配布)。事業費負担。提案団体と連携しての事業運営。</p>
5 協働の効果	<p>お互いに得意なところを持ち寄って、中味の深い事業を広く市民に提供することが出来る。</p>
6 事業のアピールポイント	<p>3. 11から5年以上を経て、当時の記憶が少ない年齢の児童が増えてくる中、又、狭山市を含む首都圏に、30年以内に直下型地震が70%の確立で起こると予測されている中、大人だけでなく、児童、生徒自身が防災意識や技術を持つことが必要である。机上で学ぶ防災教育や学校教育の範疇では実施が難しい完全体験型の事業を行うことによって、高い防災意識を持った次代を担う青少年を育成出来る。</p>